

の変化をしらべる。各4週間を4航の各断面は国際的“El Niño”計画に関連して延長されよう。海面の Gunther(ギンター)海流の湧昇とその変動研究計画も進行中で、1964年10～11月6週航海、Coquimbo(コキンボ)～Chilos(キロス)島間と岸から西沖300マイル調査。Juan Fernandez(ユアン・フェルナンデス)～Valparaiso(バルパライソ)間気圧差は湧昇とプランクトン生産を支配する風況指標に用いられ、これらとカタクチイワン漁業生産間に密接な関連を示している。

(宇田道隆)

## 5 大西洋南赤道反流 1963年7月発見

(出所: J.L.Reids Jr Evidence of a South Equatorial Counter current in the Atlantic Ocean in July 1963, Nature, Vol203, No4941, p.182, 1964)

米国ARGO号で流速4-7cm/secの東行流が大西洋1963年7月14°Wの5°～12.5°Sで見出された(1000db.基準海面の地衡流図)。13断面(15°54.5'S、19°22'W～5°0'N、12°39'Wなど観測。5°S～12.5°S間の東行流(平均流速4.5cm/sec, 最大速7.4cm/secが12.5°Sと10°Sの間にみられる)。この程度の弱海流は6、7月平均風力4(5.5-8<sup>m</sup>/s)以上の南東貿易風の影響で容易にマスクされよう。本水帯通過船舶は48時間に7.8km偏流される程度であるが、天測の誤差内にはいり、風の影響より小さい。この東行流が(北)赤道反流の大西洋に卓越する同時季に、そして太平洋で南赤道反流の最も明瞭にみられる同じ季節に観測されているのは面白い。(宇田道隆)

## 6 海洋資源改良の構想

David Cushing(英国々立水産研究所)

(1964年2月6-12日ローマ ACMRR 才2回会議報告より)

宇田道隆抄訳

I 緒 “改良”(“Improvement”)は新たな研究をはじめることより現在の知識でそれを応用してなされるものを指している。新研究の必要なことが明らかな場所もある。例えば、研究の大いに必要とされる生産系を論ずるのではなく、大洋水の湧昇する場所を議論する。